

vol. 2346

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL／(097) 556-2838 FAX／(097) 556-8998 MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二

【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ

【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容(掲載順)

●大分高教組 第118回定期大会

大分高教組 第118回定期大会

と き：6月20日(土) ところ：大分県教育会館多目的ホール

高教組第118回定期大会を実施しました。県教委がすすめる進学に特化した遠隔授業や改善されない超勤の実態、失われ続ける世界や日本の平和の問題などについて、活発な討論が行われました。各議案は賛成多数で全て成立し、2026年度の運動方針を確立しました。

山崎俊一日教組書記次長をはじめ、23人の来賓をお招きし、9時30分に開会しました。福田洋平副委員長の開会宣言に続き、議長団に武藤裕一さん(宇高支部・高田)、宮脇俊也さん(大分西部支部・由布)、久保修平さん(久大支部・日田)、議事運営委員に加来達彦さん(中津支部・中津南耶馬溪校)、佐藤和洋さん(国速杵支部・杵築)、河野恵美子さん(別府支部・別府鶴見丘)、門脇早苗さん(大分中部支部・芸術緑丘)、城戸崎寿さん(臼津支部・臼杵)を選出し、議事に入りました。

議長団：左から 武藤さん、久保さん、
宮脇さん

議運：左から 佐藤さん、加来さん、
河野さん、門脇さん、城戸崎さん

大野執行委員長あいさつ(骨子)

大分高教組第118回定期大会の開催にあたって、執行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

憲法改悪の危機に直面しています。これまでも政治情勢のうねりの中で、何回か改憲の危機が叫ばれてきましたが、現在の状況は過去最大の危機であると言えます。一昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、また昨年は敗戦被爆から80年という節目を迎え、大きな動きを作りあげる好機であったはずですが、実際にはそうはなりませんでした。

ロシアとイスラエルの侵略行為に終わりがみえない中、アメリカが軍事力を誇示しています。国際社会がめざすべき平和は、自国の利益を優先する大国によってかき乱されています。緊迫する国際情勢を受け、国内でも軍事力の増強を求める声が高まり、武力が必要だという考え方を持つ人々が活発に動いています。2月の総選挙時に話題となった「ママ戦争止めてくるわ」というSNSでの主張に対して、批判の論調が広がりました。著

名人がSNSで「戦争反対」と記しただけで炎上しているという報道もあります。批判する側の主張の論拠は、「厳しい国際情勢の中で戦争反対とつぶやくだけなのは、自己満足にすぎず無責任である」というもののようです。批判者たちは、判で押したように「戦争したいなんて誰も思っていない」「自分も当然戦争には反対だ、しかし…」という言い訳の言葉をおいてから批判に転じています。「戦争反対は当たり前」ならば、戦争反対というだけで実効性がないと思っていても、ことさらに他人を批判する必要はないはずです。現状では、これらのおそらくは戦争肯定派も、とりあえず「戦争反対」を唱えています。恐ろしいのは「誰も戦争には反対だ」という前置きが剥がれてしまう未来につながりそうなことです。総選挙で与党が記録的な議席数を獲得したことからみても、現状は、反戦平和のとりくみを進める私たちが、しっかり踏ん張らないと、社会全体がより危険な方向に進んでいく状況です。

私たち教職員組合が学校現場の働き方改革にとりくむにあたって、給特法が最大の障壁です。給特法の改正で教職調整額が少しずつ引き上げられることになりましたが、残念ながら、教員に「時間外勤務はない」と定めた給特法の根本的な考えを変えることはできませんでした。しかし、制定から50年間全く変わらなかった給特法が僅かであれ修正されたことを、将来の廃止にむけたとりくみにつなげなければなりません。また、定年引き上げが年次進行している中にあって、多くの学校で60歳を超えた職員が現場を支えているという現状から目を背けることはできません。定年引き上げは致し方ありませんが、従来から組合が主張している再雇用教職員の定数枠外にとりくみ、偏った年齢構成を解消し、また高齢層も余裕を持って働けるような職場づくりを求めているかねばなりません。

高校教育の現状についてですが、ニュース等では「高校授業料の無償化」と報道されていますが、保護者の所得制限は撤廃されたものの、いまだに申請制度であることはあまり知られていません。以前の公立高校の授業料無償化のように申請不要の制度を求めます。入試制度については、普通科全県一通学区制についてかねてからその問題点を指摘してきました。今年度入試から導入された第二志願制度では出願できる学校を受験生の居住地でわけており、いわば以前の学区の考え方に近いものとなっています。さらに来年度入試からは第三志願まで拡大されますが、高校受験生の立場で考えれば、あまりにも変化が急であり、制度変更の検証や新制度の周知のため、少なくとも翌々年からの制度変更となるよう、教育委員会に求めたいと思います。

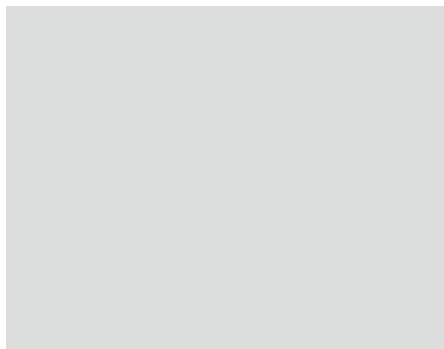
船の転覆事故と、高速道路の交通事故で高校生の命が失われました。学校教育に携わるものとして重く受けとめなければなりません。二つの事故は、平和教育は現地の活動家に任せておけばよい、連休中なので他県の強豪校相手に練習試合をしたい、そういう安易な発想から、私たちが最も重視しなくてはならないはずの生徒の安全管理をおろそかにした結果です。沖縄の事故については文部科学省が教育基本法第14条違反として指導通知を出しました。学校の安全管理に対して厳しく指導することは当然ですが、当該高校の研修旅行を「政治的活動」と断じたことは、まったく不適切な指導通知です。とはいえ平和教育のために安全性の配慮不足の経験が必要だったのか、また部活動強化のためにそうまでしての練習試合の設定が必要だったのかについては、私たちは考え方を改めなければなりません。身近なところでは、昼休みに委員会活動などで生徒を招集したことはほとんどの人が経験しているでしょう。私たちに、生徒の休み時間を潰す権利があるのかという観点からの見直しが必要です。

冒頭にふれたとおり憲法をめぐる状況が危機的情勢にあるという話ですが、危機的情勢は社会全般にわたります。報道でご存じの方も多いでしょうが、滋賀県大津市で幼保一元化のため「教育保育職」を新設して幼稚園教諭と保育士の職を統合、賃金は低い方の保育士賃金に合わせるとした条例改正案が市議会で否決されました。市の条例改正計画が報じられて以来、滋賀県教組には100人を超える幼稚園教諭の新規加入があったそうです。少し前には、経営体質をたたかれ危機に陥ったフジテレビで、二桁だった労働組合員が500人以上に増加したと報じられました。働く者の危機には労働組合の求心力が高まります。

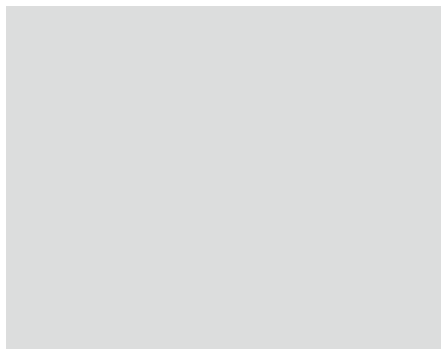
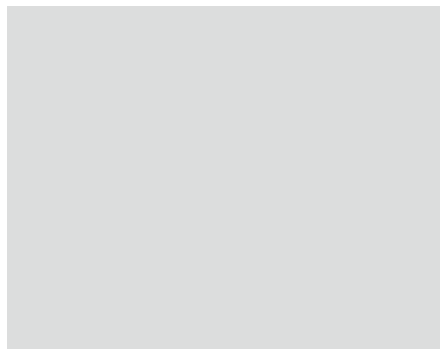
今、学校現場は、様々な課題に直面し危機的な状況が生じています。残念ながら大分高教組には飛躍的な組合員増加は見られていませんが、それは、日々の多忙化の中で危機を危機であると感じている人が少ないのか、みなさん危機感はあるけれど、学校現場で大分高教組のとりくみが評価されていないのか。後者とならないよう、いまこそ私たちは信念を持ってとりくみを進めなければなりませんし、そのための議論が必要です。

それでは、限られた時間ではありますが、今次大会が代議員の皆さんの真摯な討論によって、高教組運動を進める大会となることを期待して、執行委員会を代表してのあいさつといたします。

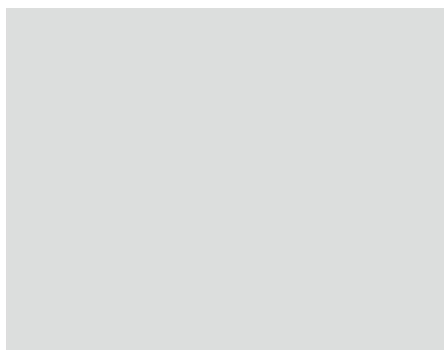
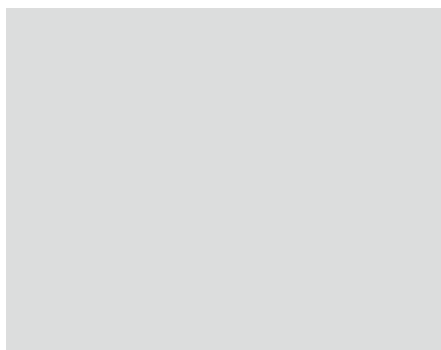
ご挨拶をいただいたご来賓の方々（挨拶順）



山崎 俊一 日本教職員組合書記次長

吉田 忠智 立憲民主党大分県総支部連合会代表
参議院議員

山田 雅文 大分県教育委員会教育長

石本 健二 日本労働組合総連合会
大分県連合会会長迫 圭吾 大分県平和運動センター副議長
大分県教職員組合執行委員長

御来賓の方々（敬称略）

山崎 俊一 日本教職員組合書記次長

吉田 忠智 立憲民主党大分県総支部連合会代表
参議院議員

山田 雅文 大分県教育委員会教育長

石本 健二 日本労働組合総連合会大分県連合会会長

迫 圭吾 大分県平和運動センター副議長
大分県教職員組合執行委員長

原田 健蔵 社会民主党大分県連合代表

高野 博幸 大分市議会議員

吉川 元 中道改革連合大分県第2区総支部長
前衆議院議員

小林 華弥子 中道改革連合大分県第3区総支部長

那賀 久資 自治労大分県職員連合労働組合
自治労大分県職員労働組合執行委員長

宗安 勝敏 大分県教育会館理事長

矢野 伸二 大分県高等学校PTA連合会会長

藤田 一樹 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
事務局長

麻生 雅晴 大分県労働者福祉協議会専務理事

岡部 勝也 九州労働金庫大分県本部本部長

小畠 三利 こくみん共済COOP大分推進本部本部長

松本 章 部落解放同盟大分県連合会書記次長

白 一秀 在日本朝鮮人総聯合会大分県本部委員長

近藤 直美 教職員共済生活協同組合大分県事業所所長

佐藤 啓 楊志館高等学校教職員組合執行委員長

河野 宏明 明治安田生命保険相互会社法人営業部長

梶原 悟 大分県高等学校退職教職員協議会会長

清原 浩一 大分県高等学校生活協同組合専務理事

質疑応答・意見・討論（要旨抜粋）

第2号議案～6号議案に対する質疑応答

■ 質疑

《第3号議案 2025年度運動の総括に関する件》

1 民主教育を守り発展させるとりくみ

豊府：①少人数分会で校長交渉を実施できない分会がある。最低何人必要か。②一部の支援学校で具申書の提出を拒んでいた、「意見書ならよい」と言われたりする。どう対応すべきか。③毎年管理職評価を出しているが、どのような意味があるのか。

回答：①1人でも可能。困りがある場合、本部に相談してほしい。②具申書は「現場からこのような意見が出ている」ということを伝えるものなので、校長が出すことに何の問題もない。意見書は、校長から県教委への意見なので、出してもらえらるならそれでも大丈夫である。③県教委は管理職評価をしっかりと読んでいるので、問題点は伝わっている。

5 労働基本権確立 職場の民主化のとりくみ

豊肥：希望していないのに主幹・指導教諭に任用されていることについて、県教委はどう回答しているのか。

回答：人事評価が任用に関わっていると聞いた。希望のない人を任用しないよう要望はしている。これからも伝え続ける必要がある。

《第4号議案 2025年度運動方針（案）に関する件》

2 教育条件整備 定数増のとりくみ

大分西、豊府：自衛隊への個人情報提供の除外申請について、生徒・保護者にどこまで周知すべきか。

回答：手続きを踏まないといけない時もあるかと思われるが、基本、しっかり伝え、広めるべきことである。広め方については幅広く検討したい。

6 組織を強化・拡大し、運動を前進させるとりくみ

もう：財政制度検討委員会はどうなるか。

回答：必要に応じて開催され、執行委員や会計監査委員の経験者などが、高教組会計のあり方について議論する場である。

《第5号議案 2026年度予算（案）に関する件》

豊肥：教職調整額が1%上がることで、組合費はどれだけ増額になるのか。

回答：1,000円上がることで、19円の増額になる。

■ 意見・討論

《第3・4号議案》

1 民主教育を守り発展させるとりくみ

日出総合：日出町は中学校が2校で、約300人の中3生のうち、30人くらいしか日出総合に来ない。地域の子が地域の学校に行けるよう、高教組として継続しとりたい。

豊肥：三重総合の普通科は、来年度から3校合同の遠隔授業となる。遠隔授業は不登校の生徒や、教員が不足している学校にはよいが、私たちは難関大合格のための授業はしていない。

6 組織を強化・拡大し、運動を前進させるとりくみ

もう：困りをかかえる人にとっては、紙よりデジタルがよい場面が多い。組合も積極的に紙からデジタルに移行してほしい。印刷費の削減にもなる。

7 単組・専門部のとりくみ

事務：現在の就学支援金制度では、システム上国籍の確認が必要となるが、入学時に提出してもらう資料では確認できない。大分県では説明資料が日本語のみなので、外国籍の保護者には説明が十分に伝わらないこともあり、事務室の負担は大きい。何より子どもの学びに対して不平等な制度なので、民主体制時のような、申請なしでの完全な無償化を望む。

《第6号議案 高教組規約の変更等に関する件》

もう：多くの規約が現状に合っていないのではないか。例えば今回の役員選挙についても、投票用紙を持って行くのにバス待ち等ですごく時間がかかる。さまざまな人のことを考えた規約にしてほしい。

■ 総括討論

日田定：若い人が組合になかなか入らない状況が続いているが、若い人が敬遠しているのは「日教組」である。ただ、私たち高教組は県教組とタッグを組んで、春闘から知事交渉までの流れの中で頑張っていることをもっと伝えたい。

平和について、生徒に発信し続ける必要がある。特に6/23、沖縄慰霊の日は大切にし続けたいといけな。今年には総理の参加もあるし、平和の詩の朗読はネットで見ることもできる。

情報科学：組合費を払って、仕事を増やしているという実感がある。とりくみ内容の精選をしなければならない。

中津北：先程の話の通り、交渉は1人でもできる。1人ひとりの組合員の背景には、たくさんの方がいることを考えるべきである。

高教組の活動がずっと続けられるように、入ってくれたなかまを大切にし、組合に入ってよかったと思えるとりくみを行いたい。

宇佐支援：第29代高校生平和大使に森璃緒さん（別府鶴見丘高校2年）が選ばれた。昨年度は月1回の署名活動や小中学校での講演など様々な活動ができた。今年度も引き続きのサポートをお願いしたい。インスタグラムもぜひ見てほしい。

働き方改革が必要なのは当然だが、同時に休み方改革も必要である。低ストレスの生活になることが望ましい。

日田三隈：分会から新採用の人が2人加入してくれた。新しく来た人は不安を抱えている。人とのつながりを求めるのはみんな同じである。ぜひ声かけを。

鶴見丘：中津南との遠隔授業を行っているが、とんでもないことである。数名だけのために、カリキュラムを作り変えたり、学校行事のあり方を変えたりするなど、今まで学校が積み上げてきたものが崩されている。遠隔のやり方を積み上げはしたが、教員の思考が奪われ、実践を取られた感が否めない。モチベーションは確実に下がっている。昔の高教組なら阻止できたかもしれないと思う。

豊府：組合員の仲間が配信センターへ行ってしまった。その人の存在を忘れてはならない。また、「遠隔はダメだな」という中で働くつらさもある。組合として対応策を考えていかなければならない。

由布：汽車通学生を考慮しながら、毎朝10分、朝読書や漢字テストを行うなど積み上げてきたものがある。遠隔授業で5分校時が早くなり、積み上げてきたものが崩れてしまう。

玖珠美山：遠隔授業を受けているのは3人だが、校時を合わせる弊害が出ている。生徒・教職員は誰も賛成していない。教育は誰のためにあるのか。今の流れを止めなければならない。

津久見：もともと大学志望の人数が少ないうえ、理系となるとごく少人数である。その生徒に遠隔をと言われても、難易度が合わない。子どものために断る必要がある。

執行委員退任・新任あいさつ

前書記長の首藤哲治郎さん（爽風館定時制分会）と、6月の役員補充選挙で執行委員に信任された奥村美佐子さん（教育会館分会）があいさつしました。首藤さんは、「子どもの『言語活動』についてよく言われるが、現場に戻って、言葉にできない何かがあることを実感している。高教組が今まで大切にしてきたものをこれからも伝え続けたい」、奥村さんは「『教え子を再び戦場に送るな』の決意が危機に瀕している。現場からは離れたが、日本国憲法の理念、平和な社会を守るために頑張っていきたい」と述べました。

なお、役員補充選挙では、会計監査委員に高木美保さん（三重総合分会）が信任されています。

また、所用のため定期大会であいさつできなかった、前執行委員の緒方里美さんの退任あいさつを掲載します。

◆退任あいさつ◆

このたび、執行委員を退任することとなりました。

1年間という短い期間でしたが、執行委員として活動する中で、多くのことを学ばせていただきました。至らない点も多かったと思いますが、無事に務めを終えることができたのは、執行部の皆様をはじめ、組合員の皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

今後は一組合員として、引き続き高教組の活動を応援していきたいと思っています。

皆様のご健勝とご活躍、そして組合のさらなる発展をお祈りし、退任の挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。 緒方 里美（国東分会）



全国定通体育大会参加者旅費補助費贈呈式・職場新聞コンクール表彰式

全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式と職場新聞コンクール表彰式を行いました。

★全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式★

全国定通体育大会参加者旅費は、働きながら学ぶ生徒の実情を考えれば、県費負担であるべきと要求し続けていますが、実現していません。そこで高教組は、主任手当拠出金を財源として補助を行っています。今年度は県内の定時制・通信制全5分会へ贈呈しました。以前とりくんでいた拠出金を原資としているので、今後の旅費補助事業について検討をはじめます。

★職場新聞コンクール★

3団体の応募がありました。組織強化の観点から、情報共有する役割は極めて大きいものがあります。来年度は参加団体が増えることを期待します。1枚でも大丈夫です。

最優秀賞 日田定時制分会

「共研」

優秀賞 養護教諭部

「養教だより」

優良賞 安心院分会

大会スローガン、大会宣言、特別決議 採択

議事の最後に、大会スローガン、大会宣言、特別決議が、大会宣言起草委員の安倍久美子さん（事務職組・玖珠美山分会）、深水彰三さん（大分東部支部・大分南分会）、安達笑子さん（豊肥支部・竹田分会）、伊達孝明さん（佐伯支部・佐伯鶴城分会）により提起され、賛成多数で採択されました。最後に全参加者による団結がんばろうで、2026年度の組合活動への決意を新たにしました。多くの皆さんの協力で、大会を盛会のうちに終わることができました。ありがとうございました。